

## 私が公衆衛生医師を目指すまで



島根県出雲保健所  
医事・難病支援課  
医療専門員

藤井 俊吾

平成26年島根大学卒業。初期臨床研修を経て、28年島根大学医学部内科学講座内科学第四(腎臓内科)へ入局。31年島根県に入庁し現職に至る。日本内科学会認定内科医。

今年度から公衆衛生医師として保健所に勤務しています。この機会に自分の史を振り返り、公衆衛生を志した原点を記しておこうと思います。また、このような経緯を持つ人間がいることを皆さんに知っていただき、今後、同じ道を志す医学生・若手医師に何かの参考にしてもらえればと思います。

### 地域枠推薦入学の学生として

私は島根県の県央に位置する大田市に生まれ育ちました。大田市には平成19年に世界遺産登録された石見銀山があり、また「国引き神話」に登場する三瓶山では令和2年に第71回全国植樹祭の開催が予定されるなど自然・文化が豊かな地域です。

高校入学当初、私は受精卵の不等分裂の不思議さに興味を持ち、理学部を目指していましたが、高校3年生の春に担任の先生から島根大学医学部への受験を提案されました。

者には知り合いの方もいたので、気恥ずかしさや妙な緊張感がありました。とても温かく迎えていただきました。そして病院の職員になることで医療スタッフや診療科の不足、医師の高齢化などの課題を直接見聞きすることもできました。将来自分がどのような形で地元へ貢献すべきかを考える時間となりました。

後期研修は地元・大田市に専門医がいない腎臓内科を専攻することとし、島根大学医学部内科学講座内科学第四(腎臓内科)へ入局しました。腎臓専門医を取得後に地元の医療機関へ派遣してもらうことを目標に、2年間大病院、その後1年間松江赤十字病院に勤務しました。臨床現場は目まぐるしく状況が変わり、つらいこともありましたが、充実した日々を送ることができました。

### 公衆衛生医師への 転向のきっかけ

現在わが国の透析患者数は平成29年末時点で約32万人に上ります。その原疾患の39%を糖尿病性腎症、10%を腎硬化症が占めており、生

私が受験する2年前に島根県内のへき地等出身者を対象とした地域枠推薦入試が開始され、大田市出身の私もその対象でした。島根大学の地域枠推薦入試ではセンター試験、面接・小論文試験の他に、地元の医療機関と社会福祉施設での適正評価(体験活動)を受ける必要があります。その頃はマスメディアで頻繁に「医療崩壊」が叫ばれていたタイミングであり、体験活動を通じて大田市でも同様に、医師不足や救急医療現場の疲弊などさまざまな問題があることを知りました。何不自由なく生活してきた地元で、まさに「医療崩壊」が目前に

迫っているという危機感を抱いたことはかなり衝撃的なことでした。このような経緯で医学部に入学しましたので、地域枠推薦入学の学生として何を学ぶべきかという問題意識がありました。当時は県内出身の学生が4割程度しかおらず、地域医療に対するモチベーションも学生間でかなり隔たりがあったため、同じ志を持つ仲間づくりや勉強の場を探す必要がありました。

そのような中で、学生サークルである「地域医療研究会」へ参加することになりました。毎年夏に島根県浜田市の診療所を拠点にフィールドワークを実施していましたが、サークルOBの先生が当時、浜田保健所に勤務しておられ、その先生との出会いがきっかけで公衆衛生医師という存在を知りました。医師法第一条には「医師は、医療及び保健指導を掌ることによって公衆衛生

療機関は患者のデータを良くするための一地点にすぎないように思われます。このようなことを考える中で、医師法第一条が頭に浮かび、健康を衛するための環境を整える仕事がしたいと思うようになり公衆衛生医師への転向を決意しました。

地域枠推薦で入学した者として、臨床医として地元へ貢献することが最も望まれていることは分かっていたので、心苦しい気持ちもありました。反対の意見もいただきました。公衆衛生医師という立場から地元へ貢献したいという私のわがままを受け入れていただき、関係者の皆さんに感謝しています。

### 現在と今後へ向けて

平成31年4月に島根県に入庁し、出雲保健所医事・難病支援課勤務となりました。現在は結核対策、難病支援、エイズ・肝炎検査を中心に担当しつつ、健康増進や精神保健、感染症など担当以外の会議・研修会にも参加し、保健所業務全般を俯瞰できるように職員の皆さんに調整していただいています。

の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする」とあります。それまでは、医療機関で臨床医として働くことしか頭にありませんでしたが、保健所など行政の医師として公衆衛生の分野で働くという選択肢を持つこととなりました。また同時に、医師として目指すべきは単に患者を治すことだけではなく、健康を衛することなのだと思えるようになりました。

### 卒後5年間の臨床経験

初期臨床研修は母校である島根大学医学部附属病院の総合医育成特別コースを選択しました。1年目は大病院での研修でしたが、2年目は県外の医療機関で家庭医療と救急医療をそれぞれ2〜3か月単位で研修しました。また6か月間、地元の大田市立病院で研修する機会を得ました。職員や患

保健所の仕事内容やスピード感、は臨床の現場と異なり、なかなか慣れない日々です。薬を処方すれば数時間で効果が出るというダイナミックさはあまりありませんし、成果が目に見える形になることも多くはないように感じます。

しかし、地域の課題や問題点がこんなにもあるのかという驚きも同時に感じています。この問題を放置していると、いつか顕在化すると思われるものを事前に把握し、そうなる前に一つ一つぶつけていくことが保健所の役割であると考えようになりました。顕在化していないうちに対処すれば誰も気付きませんし、起きていない問題をあらかじめ解決してしまえば成果も見えにくいはず。何も問題が起らないことが必然と思えるような仕事をしていきたいと思っています。

また、社会医学系専門医取得を目指し、3年間の研修プログラムも開始しました。同期の医師と比べると数年専門医取得は遅れますが、臨床とは異なったフィールドだからと自分に言い聞かせ、焦らずじっくりと公衆衛生の分野に染まっていきたいと思っています。